



## 図書館は「地域の情報拠点」！

～新たな取組「ヨコハマライブラリーカフェ」が  
果たす役割～

荘田祥子

教育委員会事務局横浜市中央図書館  
調査資料課

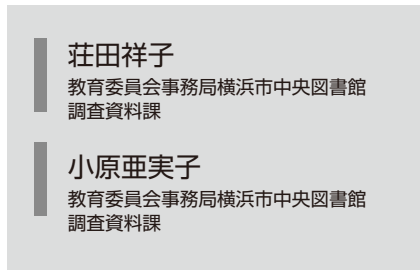
小原亜実子

教育委員会事務局横浜市中央図書館  
調査資料課

### 1 図書館を取り巻く状況 の変化

(1) 求められる図書館の役割  
横浜市立図書館では、平成  
21年4月に「市立図書館ホー  
ムページアンケート」を実施し

「ヨコハマライブラリーカフェ」  
は、難しいイメージを持つ「研  
究」の意外な面白さを知るこ  
とで学ぶ楽しさを体験し、最  
先端の研究と市民を結びつける  
「人から学び、自分で学ぶ、知  
の情報共有の場」です。  
「地域の情報拠点」を目指  
す図書館の新たな取組につい  
て、紹介します。



た。その結果、「今後どのよう  
な情報の充実を望みますか  
(複数回答)」という項目に対  
し、回答者の85・1%が「調べ  
物や調査に役立つ情報」を、  
94・3%が「テーマ別図書紹  
介」を選択している。「地域の  
情報拠点」として市民の課題  
に適した信頼できる情報を収  
集して提供し、人と情報を結  
び付けることによって市民の課  
題解決支援を行う「図書館の  
課題解決支援機能」が求めら  
れていることがわかる。

政策面でも変化があった。  
平成18年3月に、文部科学省  
が主催した「これからの図書  
館の在り方検討協力者会議」  
より提言書『これからの図書  
館像～地域を支える情報拠点  
をめざして～』が出され、平  
成24年12月には、「図書館の  
設置及び運営上の望ましい基  
準」が改正・施行された。横  
浜市でも平成19年8月に、「横  
浜市立図書館のあり方懇談  
会」が「市民力と創造力を活  
かした横浜型モデル」の図書  
館づくりを目指すための具体  
的な14提言「横浜市立図書館  
のあり方懇談会報告書」をま  
とめた。平成22年度には、この  
『横浜市立図書館のあり方懇  
談会報告書』を踏まえ、「横

浜市立図書館アクションプラ  
ン」が策定された。これらの  
提言や施策の中で、「課題解  
決支援機能の強化」と「地域  
情報拠点としての役割」につい  
て取り上げられている。

### (2) これまでの取り組み

横浜市立図書館には、読書  
の相談だけでなく、「住宅を建  
てるので、昔の土地の様子につ  
いて知りたい」、「手術をするの  
に適した病院を探している」  
、「起業するので、業界の市場調  
査をしたい」など生活に密着  
した相談も寄せられている。  
司書がこれらの相談に対し情  
報を提供するサービスをレファ  
レンスというが、平成23年度に、  
横浜市立図書館が行ったレファ  
レンスの件数は、約25万件に上  
る。

そのほか、市民が自分で調  
査するための支援として、医  
療情報・法情報コーナー等の特  
設コーナーの設置や調べ方案内  
の作成、ホームページでの情報  
提供等も実施。図書館の持つ  
機能や情報をPRし、市民の  
図書館利用を促進するため、  
所蔵する資料の展示や講演会  
も実施している。また、市役  
所内の各部署を対象に、日常  
業務や新たな事業の企画立案

等のために必要な情報調査や  
資料提供なども行っている。

しかし、「図書館は小説な  
どを読むための『読書施設』  
である」と認識している人も多  
い。図書館の情報資源を編集  
して魅力的な情報発信を行い、  
「図書館は『課題解決機能』  
を持った『地域情報拠点』で  
ある」という認知度を上げる  
必要があった。また、図書館  
が市民の自立を知的側面から  
支えるため、市民が「疑問・  
興味を持つ」、「調査方法を  
知る」、「学ぶ楽しさを味わう」  
ことを体験し「自分で調べ  
る」という行動につながるこ  
とができる事業の実施も求めら  
れていた。このような背景のもと、  
平成22年度、独立行政法人理  
化学研究所・横浜研究所と共  
催でサイエンスカフェとサイエ  
ンスセミナーを開催した。

### 2 はじまりは「サイエ ンスカフェ」

サイエンスカフェとは、科学  
者や研究者と市民がコーヒーな  
どを飲みながら、気軽な雰囲気  
の中で科学について語り合う  
場のこと。英国のリーズで19  
98年に誕生した後、世界中



サイエンスカフェ第6回  
「宇宙に地球を創る真空実験の様子」

に広まり、日本でも数多く開催されている講座の形式である。横浜市中央図書館のサイエンスカフェでは、1回2時間、前半を講義、後半を質問やグループディスカッションの時間として、お茶を飲みながらリラックスした雰囲気の中で、質問や活発な意見交換が行われるよう設定。また、終了後の学びにつながるよう、司書による図書館案内や、会場での関連資料展示、テーマに合わせたブックリストの配布も行った。カフェ形式の講座スタイルは、好評を得て新たな学習スタイルとして定着し、平成23年度には、独立行政法人宇宙航空研究開発機構、独立行政法人海洋研究開発機構など5機関と連携し延べ7回実施した。

参加者からは次のような感想が寄せられた。

・初學者にもわかりやすい最新の研究成果を聞くことができて、科学への興味が深まった。  
・研究者だからといって何でも知っているわけではないこと、フランクに『分かりません』と答えている姿が印象的だった。  
・本をいろいろ読んで、知識を深めたいと思う。  
・年代の異なる人々と話ができ良かった。  
また、ゲスト(ヨコハマライブラリーカフェでは講師をゲストと呼んでいる)からも、「自分では想像もしていなかったことを疑問に思っのか」という驚きや、「わかってもらえた!」と手応えを感じる瞬間があった、という話があった。

### 3 ヨコハマライブラリーカフェへ

このように、参加者及びゲストからは好意的な意見が多数寄せられ、「人から学び、自分で学ぶ、知的情報共有の場」がうまく機能したことがわかる。また、これまで図書館では自然科学分野での情報発信が少なかったが、サイエンスカフェを実施することで、「科学に興味はあるが、図書館を利用していない」という参加者にも図書館の魅力を伝えることができた。

横浜市中央図書館は、自然科学分野だけでなく社会科学分野や人文科学分野、ヨコハマ資料(郷土資料)など多種多様な資料を所蔵しており、入門書から専門書まで図書約150万冊、新聞約200誌、雑誌約1,600誌がある。

市民が興味を持つ分野は十人十色であり、課題解決のために役立つテーマは多岐にわたる。そこで平成24年度から、取り扱うテーマを社会科学分野や人文科学分野などにも拡大し、「サイエンスカフェ」の名称を改め「ヨコハマライブラリーカフェ」として展開することにした。

ヨコハマライブラリーカフェの実施方法や、運営の様子について紹介する。

#### (1) 実施方法

各回の開催テーマごとに、テーマに関係する図書分野の司書2~3人が担当して実施する。まず、担当者が、市民の課題解決や学習活動につながる市民の関心の高いテーマや、社会的テーマを選定する。次に、テーマに合わせて著名な研究者を採すことになるが、経費が大きな課題であった。そこで、本



第2回「コンピュータで病気が治る? 新しい生物学の展開」



第3回「日常にひそむ目に見えない環境負荷を考える」

集・発信することもできた。担当者にとっても、時間配分やディスカッションの手法など、テーマに適した進行をゲストと一緒に考えることで、様々な実施方法を学び、経験を積むことができた。大学や研究機関にとつてもまたとないPRの機会となったようで、次年度開催の企画も進んでいる。

ヨコハマライブラリーカフェは、横浜市の取組を市民に発信する場にもなる。本市の温暖化対策統括本部とは、「YES(ヨコハマ・エコ・スクール)」の一環として「環境」をテーマに実施し、水道局とは「近代水道創設125年」をテーマに実施した。参加者から「環境のサイクルを理解できた。これからの学習につなげ、環境問題の意識を深めたい」、「市、県、国による水利権行政の複雑さに興味を持った」という感想があり、市民に理解を求め意見を聴取する場として、有効に事業展開できる可能性を感じた。市民目線を忘れない行政運営や、市民協働の推進に効果的な事業となるので、関係区局に働きかけ、本市の重点施策や、地域自治の課題等をテーマに企画したい。

## (2) 企業連携

「カフェ形式」での実施が「ヨコハマライブラリーカフェ」の魅力の一つであるが、参加者に提供する飲物の確保が課題であった。本市共創推進室の「共創フロント」を通して、自社の製品を活かした地域貢献活動を提案していた(株)リタトレーディングを知り、連携協力関係を結ぶことで解決した。(株)リタトレーディングは、横浜入港のフェアトレード有機栽培紅茶を取り扱う市内企業である。図書館は、飲み物の提供を受けることで経費の支出や会計事務を削減でき、紅茶専門店に取り扱われる高品質な紅茶を提供することで事業の質を向上できた。企業は、チラシやポスターにPRスペースの提供を受けることで、地域貢献活動と自社のPRができた。



お茶を飲みながら話すゲストと参加者

アンケートでは、飲み物について好評な感想が多かったと同時に、「フェアトレードについて知ることができた」という声もあり、新たな学びも提供できた。

## (3) 広報

図書館の新たな取組「ヨコハマライブラリーカフェ」の知名度向上と、参加者獲得のために、効果的な広報戦略を練り工夫を重ねた。

## ① オリジナルロゴマークの策定

円の中の三者は、参加者、ゲスト、図書館を表し、それぞれを支える白線は、YOKOHAMAの「Y」を意味している。広報物には全てこのロゴマークを使用し、統一感を持たせた。

## ② 事業価値の向上

「横浜入港」、「フェアトレード」「有機栽培紅茶」「マイカット」を「ヨコハマ3R夢」を積極的にPRすることで、環境にも配慮している先進的なイベントであることを印象付け、イメージ向上をはかった。

## ③ Webサイトでの情報公開

募集情報だけでなく、実施した回の写真や講義資料、ブックリストを蓄積し、情報提

供を行った。記録を累積することで、興味深いWeb図書館としての効果を期待している。「質の高い学習の場」として印象付け、事業の格付けを高めた。

## ④ 様々な広報チャンネルの活用

従来からの記者発表に加え、積極的に地域の情報誌や地域情報を発信するWebサイトを利用し、幅広い世代の参加を得ることができた。連携先と広報協力したことで、広報先が広がった。

## ⑤ 複合的な展開

関連資料のあるフロアで、テーマと同じ企画展示を同時に実施することもあった。単発で別々に実施するよりも効率的に作業でき、知的好奇心を高めると同時に、知名度アップにもつながった。

## (4) 運営

当日は、司会進行と会場運営を司書が担う。ディスプレイの場面ではサポート役となるが、出番が必要なくらい活発な議論が交わされている。

図書館が行う特色あるサービスとして、テーマに則した資料の展示とブックリストの提供がある。それらは、参加者の



関連資料を読む参加者

今後の調査研究・学習活動への架け橋となる。ブックリストは、担当者がゲストとのヒアリングを重ね、豊富な資料の中から有用な本を厳選し作成している。ブックリストの作成は、テーマの関連分野について知識を得る、所蔵資料の少ない分野を把握し資料を補強するなど、調査や蔵書構築に役立つ、司書の学びの機会にもなっている。

## 4 まとめ

平成24年度は、横浜美術大学、カリタス女子短期大学など9機関と連携し、延べ10回実施することができた。図書館には長い間に蓄積した横浜市の歴史、文化、市政などに関するヨコハマ資料や、現在横浜で活躍中のアーティストの最

新資料も所蔵している。今後は、横浜市の文化事業と連動した文化発信拠点としてのヨコハマライブラリーカフェの開業も考えられる。20代〜40代の図書館利用者層が少ないので、ビジネスパーソンや、学びの機会を得ることが難しい子育て世代をターゲットにテーマ・日時を設定した回の企画にも挑戦してみたい。横浜市政に関する双方向の情報発信・学びの場として、関係区局に働きかけ、本市の重点施策や地域自治の課題等をテーマにした回の実施も継続したい。

今後も、ヨコハマライブラリーカフェを充実、発展させ、図書館(横浜市)、企業、市民、研究機関等のよい循環を創出しながら、「地域の情報拠点」として情報を発信していきたい。その結果、市民や横浜市職員が課題にぶつかった時、「図書館には、何かヒントがある」と考え、図書館の情報資源を活用する、という行動に結びつくと信じている。



【これまで開催したヨコハマライブラリーカフェ（サイエンスカフェ）一覧】

回数	日程	時間	講座名	ゲスト	共催先	
サイエンスカフェ	第1回	H22年8月28日	14:00～ 16:00	「植物がたくましく生きる術 ～知られざる植物ホルモンのほたらき～」	(独) 理化学研究所 植物科学研究センター チームリーダー 山口 信次郎氏	(独) 理化学研究所 横浜研究所
	第2回	H22年10月3日	14:00～ 16:00	「ウイルスって何？ ～病気との関係は？」	(独) 理化学研究所 新興・再興感染症研究 ネットワーク推進センター マネージャー 加藤 茂孝氏	(独) 理化学研究所 横浜研究所
	第3回	H23年9月3日	14:00～ 16:00	「地球温暖化予測は横浜から」	(独) 海洋研究開発機構 地球環境変動領域 地球温暖化予測研究プログラム 地球システム統合モデリング研究チームリーダー 河宮 未知生氏	【協力】 (独) 海洋研究開発機構
	第4回	H23年10月22日	14:00～ 16:00	「再生可能エネルギーの大きな 可能性」	(株) ユニバーサルエネルギー研究所 代表取締役社長 金田 武司氏	横浜市温暖化対策統括本部 (YES/ヨコハマ・エコ・スクール)
	第5回	H23年11月26日	14:00～ 16:00	「宇宙に地球を創る！ ～宇宙で究極のリサイクル～」	(独) 宇宙航空研究開発機構 研究開発本部 未踏技術研究センター 特任担当役 小口 美津夫氏	【協力】 (独) 宇宙航空研究開発機構
	第6回	H24年2月18日	14:00～ 16:00	「ミツバチから見える『つながり』 のカタチ」	(株) オルト都市環境研究所 代表 Hama Boom Boom! プロジェクト 代表 岡田 信行氏	横浜市温暖化対策統括本部 (YES/ヨコハマ・エコ・スクール)
	第7回	H24年3月4日	14:00～ 16:00	「ゲノムってどうやって 調べるの？ どう役に立つの？」	(独) 理化学研究所 オミックス基盤研究領域 ゲノム機能研究チーム チームリーダー カルニンチ・ピエロ氏	(独) 理化学研究所 横浜研究所
	第8回	H24年3月11日	14:00～ 16:00	「三毛猫の柄は遺伝する？」	(独) 理化学研究所 免疫・アレルギー科学 総合研究センター 副センター長 古関 明彦氏	(独) 理化学研究所 横浜研究所
	第9回	H24年3月24日	14:00～ 16:00	「スギ花粉症ワクチン開発に向けて」	(独) 理化学研究所 免疫・アレルギー科学 総合研究センター センター長 谷口 克氏	(独) 理化学研究所 横浜研究所
	第10回	H24年5月13日	14:00～ 16:00	「空を見よう、横浜で ～金環日食、金星の太陽面通過、 金星食～」	自然科学研究機構 国立天文台 天文情報センター普及室 山田 陽志郎氏	【協力】 自然科学研究機構 国立天文台
ヨコハマライブラリーカフェ	第1回	H24年8月5日	14:00～ 16:00	『『ユーモア』への招待 ～その真髄と有効性とは～』	カリタス女子短期大学 教授 浦野 洋司氏	カリタス女子短期大学
	第2回	H24年9月1日	14:00～ 16:00	「コンピュータで病気が治る？ 新しい生物学の展開」	(独) 理化学研究所 免疫・アレルギー科学 総合研究センター 細胞システムモデル化 研究チーム チームリーダー 岡田 真里子氏	(独) 理化学研究所 横浜研究所
	第3回	H24年9月22日	14:00～ 16:00	「日常生活にひそむ目に見えない 環境負荷を考える ～携帯電話と環境問題～」	横浜国立大学大学院 環境情報研究院 人工環境と情報部門 教授 松本 真哉氏	横浜市温暖化対策統括本部 (YES/ヨコハマ・エコ・スクール)
	第4回	H24年10月6日	10:30～ 12:00	「西洋美術鑑賞入門 ～ルネサンスとは？バロックとは？～」	横浜美術大学 教授 小野寺 玲子氏	横浜美術大学
	第5回	H24年10月14日	14:00～ 16:00	「横浜近代水道物語 ～水源開発と水利権の獲得を目指して～」	横浜市水道局担当理事・水道技術管理者・ 給水部長 林 秀樹氏	横浜市水道局
	第6回	H24年12月15日	14:00～ 16:00	「映画の原点： ショートフィルムの魅力に迫る」	プリリアショートショートシアター シアターマネージャー 奈良 太一氏	プリリア ショートショートシアター
	第7回	H25年2月10日	14:00～ 16:00	「写真で伝える ツバル、南極、その魅力」	写真家 水本 俊也氏	横浜市温暖化対策統括本部 (YES/ヨコハマ・エコ・スクール)
	第8回	H25年3月2日	14:00～ 16:00	「白血病の根治に挑む」	(独) 理化学研究所 免疫・アレルギー科学 総合研究センター ヒト疾患モデル研究 グループ グループディレクター 石川 文彦氏	(独) 理化学研究所 横浜研究所
	第9回	H25年3月23日	14:00～ 16:00	「身近な天気と地球環境の変化」	気象予報士 気象キャスターネットワーク理事 田代 大輔氏	横浜市温暖化対策統括本部 (YES/ヨコハマ・エコ・スクール)

これからのライブラリーカフェ &  
過去のライブラリーカフェの御案内

●横浜市立図書館WEBサイト

「ヨコハマライブラリーカフェの御案内」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/library/chosa/librarycafe.html>

